

# 琉球大学学術リポジトリ

## パインの花芽分化調節

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 友寄, 長重 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20022">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20022</a>

# パインの花芽分化調節

今年のパインは収穫最盛期に一時に多量集荷され、加工場がその全部を処理出来ず、随分腐敗パインを出し、その他の時期には品薄で、工場の運営に大きな支障を来しております。渡辺正一博士がしばしば警告されているように、ホルモンか、カーバイト処理により、収穫期を人為的に調節するのでなければ、いつまでも「魔の作物パイン」として農業の経営に多大の脅威を与えることでは



花芽分化調節によつて腐敗パインを減らすことができるでしょう

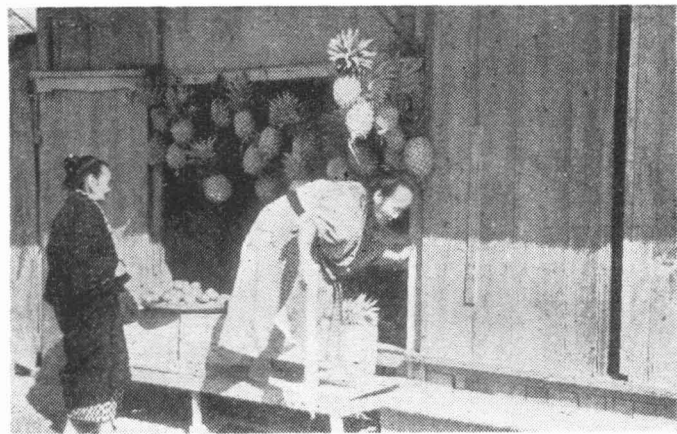
よう。名護農業研究指導所でも一応試験に成功していますので、今後は強力に処理法の普及に努めなければなりません。

ハワイでは以前にはカーバイトにより花芽分化の促進をしていましたが、現在ではナフタリンサク酸と呼ばれる植物ホルモン（以下NAAと書きます）により花の咲く時期だけでなく、果実の大きさまで調節し、加工場の運営を周年円滑にするよう努力しています。渡辺博士の台湾鳳梨の研究や名護農研所の実験結果、及びその他の文献を参考にして、NAA処理法について述べてみましょう。

NAAによる花芽分化の人為的調節には二つの目的があります。一つは低濃度の溶液による花芽分化の促進で、もう一つは高濃度のもので収穫期の遅延であります。市販されている「発根素」はアルファーナフタリンサク酸ソーダの製剤で、その中に稀釈方法が説明してあります。

元来八、九月ごろ植付けられた苗は、その後の生育がよければ、翌々年の三、四月ごろ開花し、七、八、九月にかけて収穫期となります。今年は八月に最盛期の山が来しました。自然状態で冬期の花芽分化はある程度以上に生育した草本が短日と低温にあう事により起ります。年により最盛期が変動するのは、その前年の低温の来襲が早かったり遅かったりするからです。パインは年中わずかながら開花していますが、前述の冬期花芽分化による春期開花、夏季収穫が大部分を占めています。こ

の最盛期の山をくすして、一部分を早く収穫し、一部分を遅く収穫することを目的として、NAA処理による花芽分化の調節について述べてみましょう。



花芽分化調節をすると店先はますますにぎわいましょう。

## 一、花芽分化促進のための諸事項

1、必ず花芽分化前に処理すること。草丈は七五―八〇センチ程のものが適している。葉数二五枚以上が適するという意見もあるが、まだ研究の余地がある。また植栽後一四か月目のものが促進率はよいとも考えられている。草丈の小さいもの

や生育の悪いものは果実が小さくなり、罐詰に適さなくなる。自然状態で花芽分化の起る十一月以後は大きな草本には効果がない。

2、NAAは五万倍乃至一〇万倍に薄め、一本当たり一〇乃至一〇〇ccを必ず芯に滴下する。使用濃度及び使用量については各地の実験結果によりまちまちで、尚地方、時期による研究が必要である。名護農研所では五万倍液を一〇〇cc施すのがよいのではないかと言われている。しかし草本の成熟度芯に含まれる水分により異なると思われる。若い草本は多く要し、降雨のあった後では多量必要であると思われる。

3、処理時間は日中の高温時より早朝の低温時がよい。また降雨中あるいは降雨直前後をさけること。

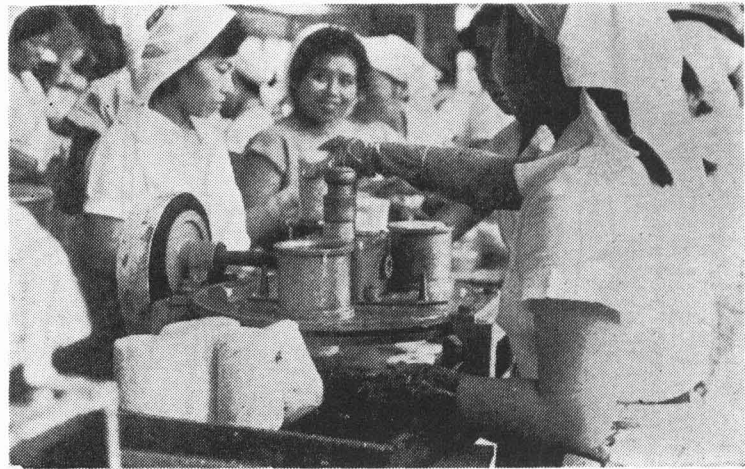
4、八、九月に植付けられたものは九、十月に処理すれば、十二、一月に出揃し、六、七月に収穫期に達する。

5、処理前に肥料を施さないこと。樹勢が旺盛だと、開花率が悪い。しかし施肥した時は果実が大きくなり、施肥の時期に関しては大いに研究する必要があるのである。

6、処理から収穫までの日数は地域、時期により異なるが、沖縄北部では夏季は六、七か月、冬期は九、十か月要する。八重山ではそれより短いと考えられる。

7、台湾での研究では十月までの処理では吸芽、裔芽の発生率がよくなる。

8、第一回収穫量は処理時期によってはやや減する事もあるが、吸芽の発生が早いいため、二回目以後の開花率及び平均重量の増大を期待することが



加工場もむらなく動かせるというもの

出来、一更新期間の総収量は無処理区に比較して優る。

9、品質はカーバイト処理試験によると果型は普通、一般果に比しやや短大で、比重は少し軽く、果サの含有量はやや少ないが、果汁の濃度及び糖度も高くビタミンC含有量多くセンイが少ない。NAA処理でも同様だと考えられるが、尚研究の必要がある。

## 二 花芽分化遅延のための諸事項

1、花芽分化遅延一か月位前にNAA〇・一乃至〇・〇一パーセント液を一回乃至三回注ぐことによって花穂抽出期を数か月遅延せしめることが出来る。

2、衆合花が直径二、五センチメートル位になって未だ草本の芯に小さい葉がとりまいてる時、NAA〇・〇五%液を芯に注ぐと、開花がおくれ成熟が一週間乃至一か月おくれる。開花中の花に散布しても効果がある。

3、このようなNAA高濃度散布では吸芽、裔芽の発生率が低下する。

4、処理によって果実の肥大を来たす。

以上の通り、NAAにより人為的開花期を調節出来るのですが、各個人まちまちに処理しても、加工場の操業計画にマッチしなければ都合の悪いことであり、これの普及には加工場と普及員、農研所が一体となって指導に当らなければならぬと思います。来年の収穫期調節のためには、自然花芽分化期までまだ一か月程あり、十月始めに低濃度処理すれば、一か月程早く収穫することが可能であり、高濃度処理すれば、二、三か月おくらすことが出来るのであります。又来春の開花期に各加工場の集荷区域の花の咲き具合を調査し、一時にあまり多く咲き過ぎておれば、その一部をNAA高濃度処理し、一週間でも収穫をおくらすことが出来れば幸いなことであります。

(友 寄 長 鑑)